平成29年度

米阪パイル織物株式会社

会社紹介

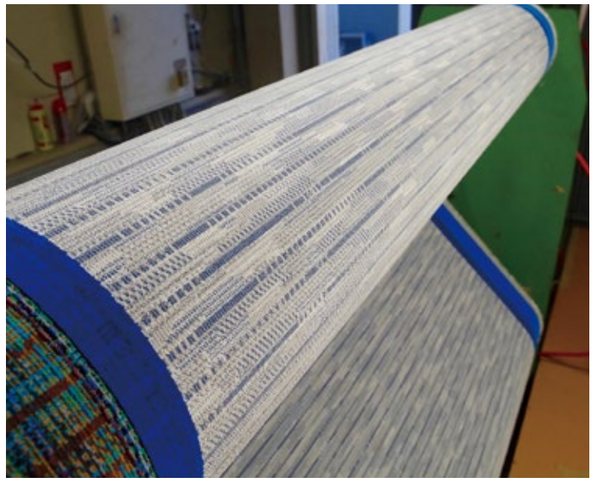
縦糸にこころの横糸を織り込む YONESAKA MIND 高品位のパイル織物で新しいくつろぎのカタチを創出

パイル織物とは、生地の基布に毛（パイル糸）が織り込まれている特殊な有毛布地のこと。同社は、世界で唯一のパイルファブリックの産地である高野口地域で、高品位のパイル織物を製造し、高級寝具や電車用シート（モケット）で高い評価を得ている。こだわりは、時を超えても変わらぬぬくもりをテーマに「人から人へ こころのコミュニケーションを大切に考える」こと。YONESAKA MINDで、技術の縦糸にこころの横糸を織り込み、限りない新しいくつろぎのカタチを創出している。そんな中、高い技術が要求される電車用シートの製造において、マーケットシェア上位に位置する同社は、電車用シートの品位と生産性の向上に乗り出した。

代表取締役社長 米阪　佳久

補助事業

強度と厳しい基準＋デザイン性 要求品位の高度化・多様化に対応



そもそも電車用シート地は、一度シートにすると5～8年は張り替えないため、座面の耐久に加えて、経年劣化しにくい強度が要求され、さらに鉄道法で定められた厳しい基準をクリアする必要がある。新幹線N700系のグリーン車シートに採用されるなど、製織技術に磨きをかけ、顧客先の納期・品質要求に応じてきたが、シート地の要求品位の高度化・多様化が進む中で、開発強化が求められた。そこで今回、デジタル式の電子ジャガードを導入することで、課題の解決に動きだす。命題となっていたのは、織柄を設定するアナログ式の紋紙。外注委託のため製作に数日を要してしまうことや、紋紙でのデザイン設定に限界があること、さらに保管スペースの問題などが課題としてあがっていた。

成　果

電子ジャガードを用いたデジタル式で 繊細な柄表現に、品位と生産性もアップ

今回、パイル織機の織柄装置であるジャガード装置を旧来の「紋紙を用いた穿孔式柄制御」方式から、「電子ジャガードを用いたデジタル式柄制御」方式に移行した。そのために電子ジャガード装置を導入し、改善計画を実施。柄パターンをスキャナーなどで読み取り、デジタル化した柄パターンでパイル糸の動きを制御する電子ジャガードと、織機とジャガード部分をつなぐハーネスを購入した。成果としては、柄の生成についてはデジタルデータを即時にアウトプット、柄の修正もデジタル化により容易に修正が可能になった。柄の再現性は、製織前に確認ができ確認作業が短縮。精度についても、柄の不具合による生地不良が解消。何より従来、柄変更の紋紙セットで2時間程かかっていた作業が、導入後は約10分と大幅削減。織機も紋紙破損対策が不要になり、10～15%の回転数アップ。柄制御をデジタル化したことで、段取り替えの短縮化、柄再現の多様化、新規開発の対応が円滑化した。

今後の展開

電車用シート地の新たな可能性 ものづくりの力で新商品を開発

移動手段であった電車が、インバウンド景気やイベント列車等の影響で観光化しつつある。それにより車内装飾の大きな役割を占める電車用シートに、多種多様な柄が要求されている。色柄がますます増えることが予想される中、今回の強化により他社との差別化を図りつつ、電車用シート地の新たな可能性を模索。クラウドファンディングを活用した商品開発にも積極的に乗り出している。

会社概要

会社名	米阪パイル織物株式会社
代表者	代表取締役社長 米阪　佳久
所在地	和歌山県橋本市神野々720
資本金	4,000万円
従業員数	30名
業種	パイル織物の製造・販売
設立年月日	昭和37年6月（創業／昭和10年5月）
TEL	0736-32-1404
FAX	0736-32-5046
E-MAIL	info@yyypile.com
URL	http://www.yyypile.com